

社会福祉法人室蘭言泉学園広報



# いずみ



写真：共同生活援助事業所「げんせん」、日中活動センターげんせん  
 室蘭市障がい者総合相談支援室「げんせん」、本部事務局 ～ 4事業所移転記念 集合写真

## 社会福祉法人室蘭言泉学園の基本理念



- 人間の尊厳を支える組織として一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- 常に利用者本位の立場に立って、そのニーズに応えヒューマンサービスの質の向上に最善を尽くします。
- 地域社会の福祉の担い手として福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。
- 社会福祉法人として、多機能で選択肢があり継続的なサービスを提供できる経営を目指します。



春を待つ

理事長 菅野 登一郎

昨年4月に開設したコミュニティプラザは「もにー」の大きな腰高窓から、芝生エリア2000㎡を眺めていますと、少し前まで雪で覆われていたはずの芝が先を争うように顔を出し、緑色に色づいていくのを目にします。

この芝生エリアは、「コミュニティプラザは「もにー」の開設宣言で「笑顔あふれる場所にする」と宣言し、国の提唱する地域共生社会実現の一翼を担いたいとするエリアであります。このエリアを地域の方に開放することで、障がいのある方の理解促進の場に必ず繋がるはずと期待感をもって整備したものです。

次年度はその具現化に向けて汗を流さなければなりません。担当する部署は、あけぼので製造するパンですとか、花ファクトリーの花苗、湘南しいたけの椎茸、日中活動センターのお焼き、パウンドケーキなど各事業所の目玉商品の販売会も検討しており、軌道に乗せることが



できれば、理解促進に加え、利用者工賃のアップにも協力できそうです。

さて、2026年度は第6次中期事業計画3か年の初年度になります。副題を「成長と充実に向けて」と謳いました。国内外共に不安定要素が多く、不確実性に満ちた状態が続く新しい年を迎えたという印象ですが、法人は進路を間違わず成長と充実を旗印に邁進していききたいと思っております。

2026年度、しっかりと目標を立てPDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を上手に回転させながら3項目、12細項目を掲げて取組んでいきましょう。

全職員が厳しかった冬を乗り越え、次の季節に向かう期待感を込めながら春を待ちたいものです。

言泉学園 重大 ニュース

試行錯誤の1年

日中活動センターげんせん 堀合 由実

令和7年4月、「コミュニティプラザは「もにー」」として、本部事務局・室蘭市障がい者総合相談支援室・共同生活援助事業所・日中活動センターの4事業所が集約されスタートしました。室蘭市子ども発達支援センターあいくるも隣接していることで、密に連携を取ることが可能になりました。



5月26日に行われた落成式を皮切りに、各事業所が集まって行われた室蘭言泉学園合同販売会・むろげんまつり・保護者懇談会とたくさんの法人行事を「は「もにー」」で行うことができました。

は「もにー」内にはカフェやレストランもあり、地域の方や保護者の方々が訪れ、買物や見学していただけた1年となりました。来年度も皆さんに愛され共生する「は「もにー」」を目指していこうと思います。



## 東京旅行行事を終えて

児童養護施設わかすぎ学園 土門 貴皓

8月4日～6日、ご厚意でいただいた寄付金で東京への旅行行事を実施いたしました。

当日は早朝の出発となりましたが、子ども達は前日から心待ちにしていた様子で、誰一人寝坊することなく元気に集合し、無事に出発することができました。飛行機に初めて乗る子もおり、出発前は少し緊張した様子も見られましたが、離陸すると窓の外を見ながら目を輝かせる姿が印象的でした。



東京は気温が40度近くまで上がる厳しい暑さとなりましたが、こまめな水分補給や休憩を取りながら安全面に十分配慮し、活動を行いました。浅草や東京ディズニーランド、チームラボなどを訪れ、どの場所でも子ども達は興味津々で、いきいきとした表情を見せてくれました。

特に東京ディズニーランドでは、事前にアトラクションを調べて楽しみにしていた子も多く、「このアトラクションがすごく良かった」「並んだけど乗れて嬉しかった」といった感想がたくさん聞かれました。仲間と協力し合いながら過ごす姿にも、大きな成長を感じることができました。

たくさんのお土産とともに、かけがえのない思い出を持ち帰ることができ、子ども達にとって大変充実した3日間となりました。

## つばさ会

共同生活援助事業所「げんせん」 課長 小松 美奈

共同事業所の利用者で構成された「つばさ会」という組織があります。「つばさ会」では年数回、室蘭市市民活動センターの事業である、まちピカパートナー事業へ参加をして母恋町内やイタンキ浜でのごみ拾い活動を行ったり、宿泊旅行を行ったりしています。

宿泊行事について今年度は登別・函館・東京・大阪と4か所でアンケートをとり、希望する場所へ旅行を計画しました。登別・函館は1泊、東京・大阪は2泊での計画でした。この旅行計画については昨年度より動き始めており、グループや付き添い職員の発表がされた後は日常の話題にも出てきており旅行日が近づくにつれて楽しみにしている様子が伝わってきていました。それぞれの旅行では様々なプチハプニングがありましたが、それも旅行の思い出話には必須です。たくさん写真を撮ったり、帰ってきた後も大いに盛り上がっていました。

実施後のアンケートでは、「また行きたい」「今回は東京に行ったから次は大阪に行きたい」「〇〇に行きたい」などなど、たくさんの意見が出ていました。利用者の皆さんと意見交流を行ないながら次の計画を進めていきたいと思います。



### 初めてがたくさん！



**児童養護施設わかすぎ学園 大和 未夢**  
 令和7年7月1日で開設52周年を迎えたわかすぎ学園。コミュニティプラザは一もにーにて、開園記念行事を実施いたしました！

行事の前には、『わかすぎ学園ホームカミングデイ』と称し、退園生のアフターケアの一環として、退園生と職員達との交流を図る企画も実施されました。その中では過去の写真をまとめたスライドショーを見ながら、和気あいあいとした時間を過ごすことができました。

その後、在園生と退園生が合流し、ゲームの前に腹ごしらえ。日中活動センターげんせんの皆さんに作っていただいたカレーをお腹いっぱい食べました。

交流会では、わかすぎ、各小規模の皆が揃ってよさこいを披露！退園生、幼児の飛び入り参加もあり、大盛り上がりでした。O×ゲーム、利き舌ゲーム、ピンゴ大会も行い、たくさんの笑顔が見られた開園記念行事になりました。

今年度は東京行事という大きな行事もあり、例年とは違う思い出が作れた1年。来年度も子ども達の思い出をたくさん更新できるよう、様々な行事を実施していけたらと思います。

### 令和7年度の桜は…



**小規模グループケア桜 副主任 大西 亜紀子**

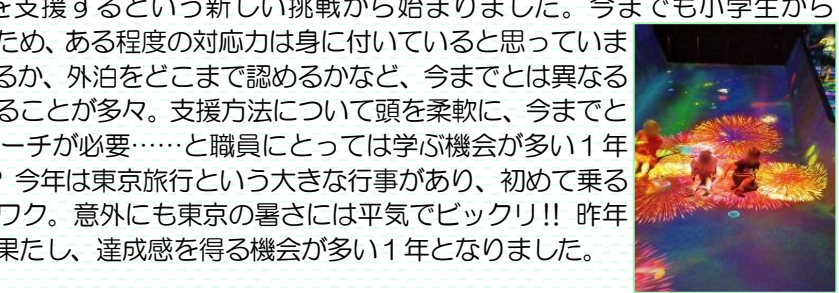
行事やイベントが詰め込み気味だった昨年度に比べ、少々おとなしめだった今年度の桜。それでも、改めて振り返ってみると、全体での東京行事を始め、苫小牧での買い物、BBQ、誕生日会にクリスマス会、冬休みにはカラオケと、食べたり遊んだりの1年でした。……ん？

行事以外にもニュースが！1階食堂にエアコン、2階居間にはクーラー、そして各居室に扇風機が設置され、夏の暑さから解放♪また、大家さんのご厚意で居室の床や壁をリフォームしていただき、更に生活が快適になりました。そんな中、今年度一番の盛り上がりを見せたのは、クリスマス会に行われたおやつ争奪トーナメント戦…“ブタミントン”でした(笑)

来年度も、たくさんの楽しいことができるといいなと思います。

### 2025 プレイバック

**地域小規模児童養護施設楓 主任 小杉 倫子**  
 今年度の楓は大学生を支援するという新しい挑戦から始まりました。今までも小学生から高校生と年齢幅があったため、ある程度の対応力は身に付いていると思いましたが、門限は何時にするか、外泊をどこまで認めるかなど、今までは異なる部分について頭を悩ませることが多々。支援方法について頭を柔軟に、今までは違った角度でのアプローチが必要……と職員にとっては学ぶ機会が多い1年に。では、子ども達は?? 今年は東京旅行という大きな行事があり、初めて乗る飛行機にドキドキ、ワクワク。意外にも東京の暑さには平気でビックリ!! 昨年のポーリングリベンジも果たし、達成感を得る機会が多い1年となりました。



### 活動報告



**室蘭市子ども発達支援センターあいくる 野澤 麻子**

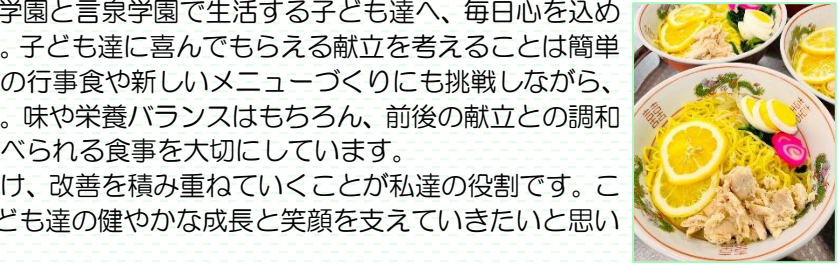
室蘭市子ども発達支援センターあいくるでは、児童発達支援センター・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援3つの事業を展開しています。

今年度は季節の大きな行事として、合同で縁日ごっこを行いました。数年ぶりの合同開催ということで心配事は多々ありましたが、当日は天気にも恵まれ、センター部門では、縁日ごっこに向けて練習をしていたおみこし行列と盆踊りを行うことができました。保育士のゲーム屋さんで楽しんだり、ホールではあけぼののパン屋さん、カフェととのポテトやおやきなど、出店いただき大盛況！たくさんの方にご協力いただき、素敵な行事となりました。

保護者の皆さんや利用者の方の笑顔も見られ、私達職員も楽しませていただきました。次年度も季節ごとの行事を大切に過ごしていきたいと思ひます。

### 食から支える、子ども達の毎日

**言泉学園・わかすぎ学園 調理室 副主任 成田 大**  
 調理室では、わかすぎ学園と言泉学園で生活する子ども達へ、毎日心を込めて食事を提供しています。子ども達に喜んでもらえる献立を考えることは簡単ではありませんが、季節の行事食や新しいメニューづくりにも挑戦しながら、日々工夫を重ねています。味や栄養バランスはもちろん、前後の献立との調和にも配慮し、安心して食べられる食事を大切にしています。



子ども達の声に耳を傾け、改善を積み重ねていくことが私達の役割です。これからも食を通して、子ども達の健やかな成長と笑顔を支えていきたいと思ひます。

### 10年目を迎えて

**苫小牧養育センター鈴蘭 副主任 横山 佳世子**

鈴蘭は現在幼児から小、中、高校生と幅広いメンバーで過ごしています。年齢の差があるのでやりたいこと、食べたい物などがなかなか決まらないことがよくありますが、小さい子は自分ができる所は頑張る、お姉さん達は手伝ってくれる所もあり時々喧嘩をしながらも仲良く過ごしています。



今年度で開設10年を迎えた鈴蘭ですが、開設当時のメンバーの最後の一人である高校生がこの春退所します。職員や他の児童と、あの時は楽しかった、あの時は本当はこうだった、と今なら言える本音も飛び出し思い出を振り返る時間が増え、ここで過ごした時間が少しでも前へ進む力になってくれたらと思います。

11年目の鈴蘭も元気で笑顔で過ごせるように職員一同、力を合わせていきます！



### はまなす怒涛の2025！

**苫小牧養育センターはまなす センター長 竹内 夕貴**

今年度は下半期にかけて深刻な人手不足といった大人側の事情もあり、色々と慌ただしく、制限がかかってしまった1年でした。余暇活動がなかなかできなかつたり、子ども達のニーズにすぐ

応えることができなかつたなあ……長年居る利用者の方は行事が体験済みであったり、新しく入居された利用者の方には未体験のことであったりそれぞれなので、ホーム担当の職員は花火大会、海水浴、遊園地、キャンプなど、同じ行事でも新しい要素を取り入れながら工夫しています。と職員側も後悔も残した年度末でしたが、今年度を振り返るために写真を見返してみるとフォルダにはいっぱい写真が。

毎月季節の行事や外出・外食など十分ではないものの何かしら活動は行っており、振り返る度にどんどん記憶が蘇ってきました(笑)

中でも、地域行事や町内会行事への参加率はとても高く、子ども達もたくさんの方々と触れ合うことができたと思ひます。その他にも行事に招待、寄贈なども頂けて

### 大型行事「50キロあるくかい」

**障がい児入所施設室蘭言泉学園 引木 祐葉**

障がい児入所施設室蘭言泉学園では、毎年「50キロあるくかい」を実施しています。二泊三日で合計50キロを職員、児童力を合わせて歩きます。

コロナウイルス蔓延に伴い、2022年度までは行うことができませんでした。2023年度は縮小して市内二日間で実施をしました。そして、2024年度はコロナ明け初となる二泊三日で50キロを実施することができました。

残念なこと今年2025年度は相次ぐヒグマ被害が北海道、全国であったため、一泊二日での開催となり、室内レクなどを行いました。ですが、普段はない外泊行事に、子ども達の笑顔も炸裂し楽しいひと時を過ごしていました！

来年度は50キロ歩くことができるのか楽しみです。



### 十人十色の笑顔が弾ける・生活介護なないろ 活動支援施設あけぼの 吉田 瑞穂

なないろは2026年2月現在、9名の利用者の方が在籍しています。活動内容は朝の会から始まり映像を見ながらの体操、季節のイベントをテーマにした創作活動、春～夏は外での散策、歩行運動やストレッチ・入浴などの個別活動を行っています。課外活動では外出レクでお花見やJRでの電車旅などを開催し、様々な体験をしていただいています。



それぞれの個性を尊重し、楽しい時間を過ごしていただくことを第一に、職員も一緒になり「全力で楽しむ」ことをモットーにしています。笑顔の絶えない空間、それが生活介護なないろです。

### 楽しく身体を動かす「リズム体操」

**花ファクトリーあけぼの 下山田 亜希**

生活介護の活動場所として新設したビニールハウスで、プロジェクターを使い映像と音楽を取り入れた「リズム体操」を昨年12月から行っています。

初めからノリノリで楽しそうな方、真剣な表情で一糸懸命動きを真似する方、恥ずかしそうになかなか身体を動かせない方、経験のない活動に戸惑う方、それぞれ違った反応でしたが、慣れてくるにつれて笑顔で身体を動かせるようになり、今では生活介護の楽しみの活動の1つとなりました。

音楽は色々なジャンルがありますが、中には「北国の春」「川の流れのように」などの演歌もありバラエティーに富んだ選曲となっています。最後はいつも「ヤングマン(YMCA)」で盛り上がり楽しい時間を過ごしています。

終わり頃には身体が熱くなり良い運動になっています。



### 優しいシイタケづくり

**就労継続支援B型事業所湘南しいたけ 副主任 奥村 英道**

湘南しいたけは、海からの風と穏やかな空気に包まれながら、シイタケを丁寧に育てています。菌床づくりから栽培、収穫後の出荷作業まで、一つひとつの工程を利用者の方が心を込めて進めています。芽かきなどの日々のシイタケ管理の手間を惜しまず育てたシイタケは、やわらかな旨味と自然の香りが広がります。



また、旨味がぎゅっと詰まった乾燥シイタケの製造にも力を入れ、地域社会に寄り添う存在を目指しています。自然の恵みをそのままお届けできるよう、これからも丁寧なものづくりを大切にしていきたいです。



# 事業所活動

つづき

## 新しい体験を求めて

共同生活援助事業所「げんせん」 主任 菊地 真利

グループホームの行事は、毎月のホーム会議で話し合われ個別、ホーム、事業所単位で計画され、次月の行事を決めています。長年居る利用者の方は行事が体験済みであったりしますが、新しく入居された利用者の方には未体験のことであったり、それぞれなので、ホーム担当の職員は花火大会、海水浴、遊園地、キャンプなど、同じ行事でも新しい要素を取り入れながら工夫しています。とあるホームではクリスマスに楽器演奏でもしたのかな？

ある利用者から「行ったことのない場所、トマムや沖縄に行きたい！」となげに話されました。話だけで終わらせないでそういった希望をしっかりと受け止め、次の利用者の支援に組み込んでいけたらと思っています。



## 移転して1年が経ちました

日中活動センターげんせん 堀合 由実

令和7年4月、21年間お世話になった母恋マンションから、元朝陽小学校グラウンド跡地に建てられた「はーもにー」内へ、就労継続支援B型23名・生活介護37名を定員として移転し、1年が経ちました。



移転初日、利用者の皆さんは新しい施設を楽しみにしていたので、混乱することなく笑顔いっぱい登所してくれました。

生活介護では、日々の活動の中でグリーンエリアでのしゃぼん玉やイベントホールでの季節の行事を行い、冬期間は「はーもにー」内を周回する散歩も行われました。

4月21日からは、B型事業のカフェ&キッチンでとてがオープンしておやきやホットスナックの販売のほか、レストランの料理を運ぶウェ이터などのお仕事も増え、利用者の皆さんは新しい環境の中で大変な1年かと思いましたが、季節に合った室温の中で快適に笑顔で過ごしています。

## 『室蘭言泉学園』を象徴する

本部事務局 事務局長 山口 昭廣

職員の組織に対する誇りや帰属意識を育てることで一体感を促進し、法人事業の活性化に繋がりたい——菅野理事長の熱い思いから、この度、法人事業を象徴するシンボルマークを制定いたしました。マークは職員から募集し、四役会で審査の上、本部事務局企画振興係 川島優佳さんの作品が選定されました。

デザインは、法人のイメージカラーである緑を基調に、利用者・職員・地域住民がともに一つの輪になれる場を提供する法人を目指して、地域福祉の向上に貢献する姿勢を表現しています。色やフォルムの細部に込められた意味は、誌面を通して感じ取っていただければ幸いです。

今後は各種広報物やホームページなどで活用される予定です。このマークが法人内外で多くの方々に親しまれる存在となることを期待しています。



## ケアマネージャーと行った

「野中式事例検討会」について

室蘭市障がい者総合相談支援室「げんせん」 岩田 淳希

令和7年度は、室蘭市内で働くケアマネージャーとの交流や意見交換の場として、一月と二月に野中式事例検討会を開催しました。

今回の事例検討を通して相談支援専門員とケアマネージャーの視点の違い、知識の違いが見えましたが、本人中心支援の視点は変わらないことが確認できました。

今後もこういった事例検討を通して、連携を深めていきたいと思いました。また、このような学びを通して、柔軟に対応する力を高めたいです。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

湘南しいたけのご用命は (0142-82-4065)





日中活動センターのご用命は ☎ (0143-23-0520)



# 令和8年度 社会福祉法人室蘭言泉学園カレンダー

## ご厚志に感謝！ 寄附者一覧

(令和7年3月～令和8年2月)

《団体》 (敬省略)  
 (株)Wads、24時間テレビチャリティー委員会、(有)アクト警備オフィス、(株)伊藤工業専務取締役伊藤智、医療的ケア児者親の会咲くシオンの会、カーブスイオン登別、観音山仙海寺、コープさっぽろ、札幌レ・リアンライオンズクラブ田頭理、(株)セコマ、全国シャンメリー協同組合、(公社)全日本不動産協会北海道本部道央ブロック長亀井英明、チビッコ未来文庫佐藤隆司、日本鏡餅組合、(公財)日本児童養護施設財団、日本同盟基督教団港南福音教会、(有)花のながはら、(株)ビクトリア観光ビクトリア室蘭店、広尾町役場サンタランド係、(株)ファーストリテイリング、藤川建設(株)、(株)フジテク工業、(株)フレーベル館コンテンツ事業部出版本部、(株)ホクビー、母恋南町々会、北海道ぎょれん販売企画部、北海道コカ・コーラリテール&ペンディング(株)室蘭登別支店、ほっともっと、(公財)毎日新聞東京社会事業団、末日聖徒イエスキリスト教会、(株)マルハン室蘭店、室蘭友の会五十嵐江子、室蘭東ライオンズクラブ、室蘭八幡宮、(同)山本工業代表山本将也

《個人》 (敬省略)  
 麻田和茂、市川論、大地稔、川端久枝、川本晃英、栗林呂名、小松、佐藤弘明、芝垣晶子、高田知子、永谷恵、成田則久、信田有子、福田啓輔、福田稔、藤井博子、細川八寿子、堀内道子、武老正樹、門司一徹、八木橋紀子、山内民江、山縣次朗、山下真優美、横山容子、吉原笑子、米倉潤

○辞令交付式  
○地域小規模児童養護施設 開設



4月

○春季行楽行事  
○定時評議員会



6月

○夏季行楽行事  
○日活まつり(日活)



8月

○むろげんまつり  
○各種中間報告



10月

○クリスマス会  
○忘年・もちつき会



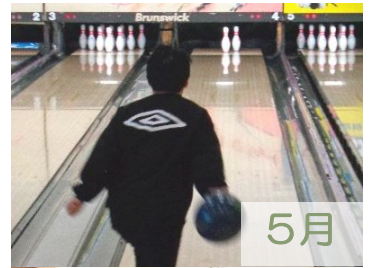
12月

○節分行事  
○保護者懇談会



2月

○定時理事会



5月

○サマーキャンプ



7月

○50kmあるくかい?



9月

○永年勤続表彰式



11月

○成人式



1月

○退園式  
○各種報告



3月

## 広報いずみ

2026年3月26日発行

発行人 社会福祉法人 室蘭言泉学園  
 住所 〒051-0003  
 室蘭市母恋南町2丁目2番1号  
 電話 0143-50-6720  
 HP <https://gensen.or.jp>

## 編集後記

4事業所移転から1年が経過しました。移転直後の慌たしさも落ち着き、利用者の方も職員も新しい環境にすっかり馴染んだように思います。はーもにーの活用は現在、法人内の行事や研修会が中心ですが、来年度からは地域に開かれた施設として、様々なイベントを企画してまいります。今後の取り組みにぜひご注目ください。

今年度は5名の児童が卒園します。これまでと大きく環境が変わり、不安に感じることもあるかもしれませんが、学園での経験はきつと力になります。職員一同、これからの歩みを心より応援しています。(か)